力道山とプロレス文化

岡村　正史
（プロレス文化研究会／人間科学博士）
2024 年 11 月 14 日　西宮東高校ホール

０．はじめに

1. 力道山略年表

1923.7.14　朝鮮咸鏡南道（ハムギョンナンド）（現朝鮮民主主義人民共和国領）に生まれる
　　本名　金信洛（キムシンラク）。創氏改名後は金村光浩。（1922 年説もあり）
1924.11.14　プロレスラーになってから公表された生年月日。出身地は長崎県大村とされた。
1940　朴シンボンと結婚。
　2 月　花嫁を放置して大相撲入りのため渡日。二所ノ関部屋に入門。
1943.3.7　娘とされる金英淑（キム・ヨンスク）誕生。
1944.1　京都の女性との間に、長女・百田千栄子誕生。
1946.3.15　長男・百田義浩誕生。
1948.9.21　次男・百田光雄誕生。
1949　この頃、小沢ふみ子と結婚。
　5 月　関脇に昇進。
1950.9　東京の浜町の自宅で自ら髷を切る。廃業。通算成績 135 勝 82 敗 15 休。幕内在位 11 場所。
　11 月　就籍届け、「本名・百田光浩。父亡百田巳之助、母亡たつ。大正 13 年 11 月 14 日生まれ。本籍・長崎県大村市」
1951.9　ボビー・ブランズら一行がチャリティ・プロレス開催のため来日。
　10　ブランズとエキジビジョン・マッチ。プロレス・デビュー。
1952.2.　ブランズとの契約で渡米。ハワイで沖識名のコーチを受ける。
1953.3　米国遠征より帰国。
　7 月　日本プロ・レスリング協会発表式。会長に酒井忠正（横綱審議委員会会長）。
　12 月　ハワイでNWA世界王者ルー・テーズと対戦し敗れる。
1954.2　日本プロ・レスリング協会が蔵前国技館で 3 日連続興行。力道山、木村政彦がシャープ兄弟と対戦。日本テレビが 3 日間とも、ＮＨＫが初日と 3 日目を中継。三大紙がいずれも運動面で報道。
　8　ハンス・シュナーベル、ルー・ニューマンが来日。
　このころ日本プロ・レスリング協会は財団法人としての認可を文部省体育課に求めるが却下。
　12　横綱・東富士が大相撲を廃業し、プロレス転向を表明。
　力道山対木村政彦のために日本プロ・レスリング・コミッション設立。初代コミッショナーに酒井忠正が就任。
　蔵前国技館で木村政彦を破り、日本ヘビー級王者となる。
1955.1　大阪府立体育会館で山口利夫を破り、日本ヘビー級王座を防衛。
　7　国際大会シリーズが開幕。プリモ・カルネラを差し置き、ジェス・オルテガが人気を博す。東富士も期待外れ。
　12　伝記映画「力道山物語　怒涛の男」が日活で公開。美空ひばりが主題歌を歌う。
1956.4　シャープ兄弟らを招いての国際シリーズ。初日はＮＨＫ、日本テレビ、ラジオ東京（現ＴＢ

S）三局が同時中継。民放二局のスポンサーはいずれも八欧電機（ゼネラル）。

6　新田新作が死去。

10　ウエート別統一日本選手権大会。関西系団体が制圧され、吉村道明が日本プロレスに移籍。

1957.6　日本テレビが毎週土曜夕方に「ファイトメン・アワー」の放送開始。原則的に力道山抜きの日本勢の試合が中心。スポンサーは三菱電機。

8　ボボ・ブラジルらを招いてのシリーズでプロレス人気復活。

10　NWA世界王者ルー・テーズが初来日。大野伴睦（自民党副総裁）が二代目コミッショナーに就任。テーズ戦が後楽園球場、大阪・扇町プールで実現。この試合を最後に永田貞雄（興行師）が力道山と絶縁。

12頃　小沢ふみ子と別居。

1958　この年日本では9月まで力道山の試合は行われず。

8　ロサンゼルスでルー・テーズと対戦し、勝利を収めるが、タイトルマッチかどうかで情報が錯綜。結局、力道山はインターナショナル選手権者となる。

8.29　日本テレビのプロレス中継が「ディズニーランド」とのカップリングで、隔週で金曜8時の放送となる。

1959.1　東富士が引退を発表。

5　第1回ワールドリーグ戦が開幕。爆発的人気を集める。

1960.4　日本プロ・レスリング協会が馬場正平と猪木完至の入門を発表。

8　スポーツ・ニッポン特派員としてローマ・オリンピック視察のためイタリアに渡航。

1961.7　東京・道玄坂にリキ・スポーツパレスが完成。

8　東京・赤坂にリキ・アパートメントが完成。

リキ・スポーツパレス内のプロレス会場で初試合。この日より「ディズニーランド」のある金曜日は深夜枠でプロレスが録画中継されることとなり、毎週金曜の放送が実現。

11　新潟に着いた帰国船上で北朝鮮からやって来た次兄、「娘」と再会を果たしたという。

1962.4　ブラッシー、東郷らの試合をテレビで見ていた全国の高齢者が「ショック死」し社会問題化。

9　試合で右胸鎖関節亜脱臼の負傷を負い、4試合欠場。アメリカンフットボールのショルダーバッドを着用して復帰。

この年の夏から翌年初めにかけて、在日朝鮮中央芸術団の女性と同居したとされる。

1963.1.7　田中敬子との婚約を発表。

1.8　韓国を極秘訪問。

5.24　東京体育館でのザ・デストロイヤーとの一戦がテレビ視聴率64パーセント（ビデオ・リサーチ調査）を記録。

6　田中敬子との結婚式。世界一周新婚旅行。

9　オリンピック基金財団に一千万円を寄付。

12　浜松市で生涯最後の試合。

赤坂のナイトクラブ「ニューラテンクォーター」で腹部をナイフで刺される。山王病院に緊急入院し、開腹手術。

12.15　午後9時50分永眠。

12.20　東京・大田区池上本門寺で葬儀。

2 .力道山に関するアンケートより

力道山および彼が紹介したプロレスはリアルタイムで観た人にとってどのように受け止められたの

だろうか。このようなことを探るために、高齢者（62歳以上）を対象に「力道山に関するアンケート」を実施し、183名の回答を得た。対象は兵庫県阪神シニアカレッジの受講生であり、2002年10月24日と2003年５月15日にシニアカレッジでの講義の時間を利用して実施した。

●回答者の性別は男性113名（61.7%）、女性47名（25.7%）、無回答23名（12.6%）
生年は1931～35年が78名（42.6%）、1936～40年が66名（36.1%）※力道山ブームに14～23歳で遭遇した人が大半を占めている。最高齢層は1917～21年の４名（2.2%）。

Ａ　「 力道山の生前プロレスをよく見ましたか」

「よく見ていた」74名（40.7%）、「ときどき見ていた」76名（41.8%）「まったく見たことがない」９名（4.9%）※ただ、女性が見ていた頻度は男性に比べてかなり低い。

Ｂ プロレスを見たことがある人を対象に**「どういう手段でプロレスを見ましたか」**（複数回答可）
「自宅のテレビ」118名、「街頭テレビ」59名、「近所の家のテレビ」44名、「映画館（ニュース映画）」32名、「試合会場」３名　※当時ラジオによる中継もあったが、選択肢には入れなかった。

Ｃ テレビの購入時期

「昭和34年」30名、「昭和30年」24名、「昭和35年」22名、「昭和33年」21名
※「昭和30年」の回答には「昭和30年代」というニュアンスが含まれているかもしれない。いずれにせよ、昭和30年代前半の回答が75%を越えている。

Ｄ「力道山の死後、プロレスをよく見ていますか」

「今でもよく見ている」「今でもときどき見ている」の合計12名（6.6%）
「ある時期までときどき見ていた」51名（28.2%）「ある時期までよく見ていた」23名（12.7%）
「あまり見たことがない」64名（35.4%）、「まったく見たことがない」31名（17.1%）※過半数の人が「プロレス離れ」を起こしたことがわかる。

Ｅ　前問で「ある時期まで・・・」と回答した人にその時期も問うたが、ほぼ８割が1970年代までと答えている（選択肢には年代だけではなく、その年代の主要レスラーの名前などを挙げて回答しやすくした）。

※大半の人が力道山時代にはテレビを中心にプロレスを見ていたが、力道山死後半分くらいの人がプロレスを見なくなり、見続けた人の多くも80年代には見なくなり、今でも見ている人は少数派である、ということになる。

Ｆ 「力道山は好きでしたか」

「好きだった」57名（31.7%）、「どちらかといえば好きだった」58名（32.2%）、「どちらともいえない」57名（31.7%）「どちらかといえば嫌いだった」「嫌いだった」の合計が８名（4.4%）

Ｇ「プロレスが好きですか」

「好き」７名（3.8%）「どちらかといえば好き」34名（18.6%）「どちらともいえない」75名（41.0%）、「どちらかといえば嫌い」46名（25.1%）、「嫌い」21名（11.5%）
※「力道山は好きだった」６割と「プロレスが好き」な２割の差はどう考えたらいいのだろうか。力道山の死後のプロレスのイメージの悪さが影響している部分もあるだろうが、日本のプロレスの事実上の創始者である力道山はそれだけで巨大な存在であり、プロレスというジャンルを超えていたといえるのかもしれない。

Ｈ　力道山が好きな理由

「強い」17、「日本人に勇気を与えてくれた」16、「『外人』を負かす」10、「技の切れ」５

Ｉ　力道山が嫌いな理由

「プロレスに興味がない」７

Ｊ プロレスが好きな理由

「迫力がある」４，「格闘技が好き」「身体を張っている」各３、「テレビが珍しかった」２

Ｋ プロレスが嫌いな理由

「ショーである」14、「八百長」10、「力道山の死後ショー化した」６，「格闘技が嫌い」６，「興味がない」６

※「真剣勝負かショーか八百長かわからない」「スポーツではない」「ストーリーが読める」「見世物」などを含めて、スポーツとしての正当性への疑問から来る回答が多くを占めている。これに比べると「残酷」「血なまぐさい」「弱い者いじめ」など暴力性への嫌悪は比較的少なかった。

「力道山の死後ショー化した」という回答が示すように「力道山」と「プロレス」を差別化しようとする心性が存在することは間違いないように思える。

Ｌ「プロレスは『スポーツ』だと思いますか」

「思わない」83（46.4%）、「どちらともいえない」72（40.2%）

Ｍ「プロレスは『ショー』だと思いますか」

「思う」140（80%）、「どちらともいえない」29（16.6%）

Ｎ「力道山でいちばん印象に残っていること」（自由回答）

「空手チョップ」64、「死に方（あっけない、壮絶）」15、「木村政彦戦」14、「『外人』を倒す」１１、「黒タイツ姿」８，「ルー・テーズ戦」７，「シャープ兄弟戦」６、「強さ」６

Ｏ 「力道山の生前に彼が朝鮮半島出身であったことを知っていましたか」

「はっきり知っていた」は16名（8.7%）「うすうす知っていたような気がする」68名（37.2%）、「知らなかった」89名（48.6%）、「覚えていない」10名（5.5%）

※「うすうす知っていたような気がする」に死後の記憶との混同がある可能性を勘案すると、生前にこの事実を知っていた人は少数派であろう。

※「はっきり知っていた」人のうち、50%の８名が「大相撲時代の力道山を覚えている」人であり、大相撲をよく見ている人は見ていない人よりもこの事実を知っていた可能性が高い。

Ｐ「戦後四大有名人」といわれる**「力道山、美空ひばり、長島茂雄、石原裕次郎」**の４人を好きな順番に並べてもらった。第一位に挙げた人の数では石原57、美空49、長島48、力道山19の順番であるが、力道山と他の三人の差は大きく開いている。逆に、第四位の順番では力道山83、長島32、石原21、美空18となり、ここでも力道山と他の三人の差は大きい。

アンケート結果を通して浮上するのは、力道山への好感とは裏腹に、プロレスに対するスポーツとしての正当性への拭いがたい疑念である。事実、この問題は力道山当時から言われていたことであり、「力道山の死後ショー化」したわけではない。そう思わせるだけ力道山の存在は大きかったのだろう。

3. 自民党略史および裏社会

官僚派（吉田系）　vs　党人派（鳩山系）

岸信介、池田勇人、佐藤栄作　大野伴睦、河野一郎、川島正次郎

1960　岸が政権密約（→大野→河野→佐藤）を反故にし、池田政権誕生。党人派が反発。池田は党人派に一定の配慮を強いられる。安保後、警察、公安調査庁、内閣調査室、自衛隊が充実。暴力団に頼る必要がなくなった。→「プロレスは暴力団の資金源」→1965 年～公共施設借りられず、児玉誉士夫、田岡一雄、町井久之は日本プロレス協会の役員を降り、豊登ら幹部レスラーは地方へ弁明行脚。

4. 力道山に関する出版、メディア

牛島秀彦『力道山物語　深層海流の男』（毎日新聞社、1978 年、徳間文庫、1983 年）

村松友視『私、プロレスの味方です』（情報センター出版局、1980 年）

同『当然、プロレスの味方です』（情報センター出版局、1980 年）
同『ダーティ・ヒロイズム宣言』（情報センター出版局、1981 年）
同『合本　私、プロレスの味方です』（ちくま文庫、1994 年）
松竹映画「ザ・力道山」（高橋伴明監督、村松友視プロデュース、1983 年）
「週刊プレイボーイ」「『統一新報』が報道した“もうひとつの力道山物語”」（1984 年 3 月 9・16 日）
「毎日新聞」「力道山は『民族の英雄』」（1992 年 10 月 8 日）
「アサヒグラフ」「二つの祖国を持った日本最強の男」（1994 年 3 月 18 日）
「毎日新聞」「力道山は愛国者」（1994 年 11 月 25 日）
「朝日新聞」「海峡の力道山」全 5 話（1994 年 12 月）
門茂男『力道山の真実』（角川文庫、1985 年）
大下英二『永遠の力道山』（徳間書店、1991 年）
原康史『激録力道山』全 5 巻（東京スポーツ出版社、1994～1996 年）
李淳馹（リ・スンイル）『もう一人の力道山』（小学館、1996 年、小学館文庫、1998 年）
村松友視『力道山がいた』（朝日新聞出版社、2000 年、朝日文庫、2002 年）
田中敬子『夫・力道山の慟哭』（双葉社、2003 年）
猪野健治『興行界の顔役』（ちくま文庫、2004 年）
岡村正史『力道山　人生は体当たり、ぶつかるだけだ』（ミネルヴァ書房、2008 年）
朴一『僕たちのヒーローはみんな在日だった』（講談社、2011 年）
岡村正史『「プロレス」という文化』（ミネルヴァ書房、2018 年）
ＮＨＫ「アナザーストーリーズ　戦後最大のヒーロー 力道山の真実とは？」（2022 年 6 月 17 日）
細田昌志『力道山未亡人』（小学館、2024 年）

５．ロラン・バルト「レッスルする世界／プロレスする世界」

● Barthes,R.,1957,*Mythologies*,Seuil（篠沢秀夫訳,1967,『神話作用』,現代思潮社
下澤和義訳,2005,『現代社会の神話』,みすず書房）

●『神話作用』の巻頭を飾る「レッスルする世界」（『現代社会の神話』では「プロレスする世界」、初出は『エスプリ』誌、1952 年 10 月号）　世界初のプロレスに関する知的考察。プロレス論の古典。

● バルトのプロレス愛好

「彼は、驚きながら、大好物として、このスポーツ風の人工物を眺めていた。」（『彼自身によるロラン・バルト』）「プロレスはスポーツではなく、スペクタクルなのだ」（「プロレスする世界」）。

●バルトが 50 年代に観た「二流のホール」エリゼ・モンマルトルでの観戦体験（1982.3.28）に見る興行の流れ。

第一試合・弱いベビーフェース（善玉）が反則勝ち→第二試合・「規則的」な試合=反則がなく、過剰に礼儀が守られるベビーフェース同士の試合「妙にフェアプレイをするじゃないか、あいつらときたら」→第三試合（メインイベント）・ヒール（悪玉）一人（巨漢の日本人）対ベビーフェース二人（小柄なフランス人）のハンディキャップマッチ「悪しき感情の大狂宴」→ベビーフェースの逆転勝利→観客熱狂

●翻訳上の問題点

‘Le monde ou l’on catche ’ →**「レッスルする世界」**（篠沢訳）**「プロレスする世界」**（下澤訳）

篠沢訳では catch が 1 箇所を除いてすべて「レスリング」と訳され、下澤訳ではすべて「プロレス」と訳されている。

1933 年生まれの篠沢は 1967 の段階で「プロレス」を直視できなかったのか。1967 年と言えばジャイアント馬場の全盛期。プロレスが金曜 8 時にテレビ中継され、大衆的な人気を得ていたにもかかわらず。その点、1960 年生まれの下澤は「プロレス」と 2005 年に訳すことができた。プロレスの人気は地

に落ちてはいたが。

６.プロレスラーの訃報研究

一般紙は、新聞によって時期は異なるものの力道山時代のある時点からプロレスをスポーツ欄で報道しなくなった。プロレスはスポーツ紙による報道が中心となり、とりわけ児玉誉士夫がオーナーだった「東京スポーツ」のような夕刊スポーツ紙が重要な役割を担った。日刊スポーツ紙も次第にプロレスを扱わなくなり、今では試合を取り上げる例は少なくなっている。

一方、地上波テレビでは 1988 年までプロレスはゴールデンタイムで放送され続けた。その後、深夜枠などに移行し、単発番組としてゴールデンタイムで放送された最後は 2002 年である。

もちろん、さまざまなメディアは存在するものの、触れるには「努力」を要するジャンルとなっている。しかし、レスラーがときに一般の眼にも注目されるときがある。悲しいことだが、訃報である。レスラーの訃報に関して調べてみた。

「日本プロレス全史」2014 年版および訃報 wiki 2014 年～2024 年をベースにしてみると、1954 年以降プロレスラー及び関係者で逝去したおもな者は 400 名以上を数える。このうち、読売、朝日、毎日の三大紙すべてに訃報が掲載された者は選手 44 名、関係者 5 名の計 49 名である。以下に記す（逝去順。）。なお、事故報道も訃報に含めている（三大紙東京版基準）。2024 年 10 月 27 日現在。

【選手】

1963 年　力道山
1973 年　東富士
1982 年　ハロルド・T・サカタ（坂田）
1987 年　ハル薗田
1993 年　アンドレ・ザ・ジャイアント、木村政彦
1995 年　ミスター珍
1997 年　プラム麻里子
1998 年　ボボ・ブラジル、豊登
1999 年　芳の里、ジャイアント馬場、門恵美子、ジャッキー佐藤
2000 年　ジャンボ鶴田
2002 年　ルー・テーズ、サンダー杉山
2003 年　吉村道明、フレッド・ブラッシー
2005 年　橋本真也
2006 年　大木金太郎（キム・イル）→二代目「力道山」襲名挫折（60 年代後半←朴正熙政権）
2007 年　カール・ゴッチ
2008 年　グレート草津、キラー・コワルスキー
2009 年　三沢光晴、ショータ・チョチョシビリ
2010 年　ラッシャー木村、アントン・ヘーシンク、山本小鉄、ジョー樋口
2011 年　上田馬之助
2014 年　ビル・ロビンソン
2015 年　ビレム・ルスカ
2016 年　ハヤブサ
2018 年　ブルーノ・サンマルチノ、マサ斎藤、輪島大士
2019 年　ザ・デストロイヤー、北尾光司
2020 年　木村花

2022年　アントニオ猪木
2023年　テリー・ファンク、キラー・カーン
2024年　曙太郎
【関係者】
1956年　新田新作
1990年　九州山
2003年　森下直人、小島貞二
2018年　馬場元子

次に、三大紙のうち一紙、あるいは二紙に訃報が掲載されたレスラー及び関係者を記す。
【選手】
1985年　佐藤真紀（読・毎）
1987年　マイク・フォン・エリック（朝）
1988年　ブルーザー・ブロディ（朝・毎）
1993年　直井敏光（読）
1997年　ジープ・スウェンソン（読・朝）※俳優「バットマン＆ロビン」出演
2000年　福田雅一（読・朝）
2002年　ワフー・マクダニエル（読・毎）
2004年　ヘラクレス・ヘルナンデス（読）
2005年　エディ・ゲレロ（朝）
2007年　クラッシャー・バンバン・ビガロ（朝）
2010年　星野勘太郎（朝・毎）
2015年　バーン・ガニア（朝・毎）、阿修羅原（朝・毎）
2016年　永源遙（朝）
2017年　チャボ・ゲレロ（毎）
2018年　ビッグバン・ベイダー（読・毎）、ダイナマイト・キッド（読・毎）
2019年　青木篤志（読・毎）、ハーリー・レイス（毎）
2020年　サムソン宮本（朝・「惜別」欄）※プロレス愛好者団体「新根室プロレス」代表
2021年　ストロング小林（読・毎）
2023年　木戸修（毎）
2024年　小林邦昭（毎）
【関係者】
1956年　阿久津直義（読・毎）
2002年　荒井昌一（朝）
2009年　松永高司（朝）テッド・タナベ（朝）

最後に、訃報が三大紙に掲載されなかった主要レスラー・関係者は次の面々である（主観に基づく）。
1973年　グレート東郷
1985年　吉原功
1986年　山口利夫
1988年　マイク・シャープ
1991年　ディック・ザ・ブルーザー
1997年　フリッツ・フォン・エリック
1999年　ヒロ・マツダ、ゴリラ・モンスーン
2001年　ジョニー・バレンタイン、ベン・シャープ
2003年　ザ・シーク、ホーク・ウォリアー
2005年　クラッシャー・リソワスキー

2010年　ジャック・ブリスコ、ジン・キニスキー　2015年　ニック・ボックウィンクル
2018年　ドン・レオ・ジョナサン、ペドロ・モラレス
2020年　アニマル・ウォリアー、ダニー・ホッジ
　ファンの思いと訃報を通しての「知名度」のギャップに皆さんはどういう思いを抱くでしょうか。参考までに、一般紙のある調査結果を記します。
【参考】「記憶に残る昭和の外国人レスラー」（朝日新聞　2015年5月2日付）
回答者数1378（対象　朝日新聞デジタル会員）あらかじめリストアップした55人から「もう一度見たいと思う」人名を複数選択。
※回答数の後の（　）内は訃報の掲載紙。☆は力道山時代に来日経験あり。
① アブドーラ・ザ・ブッチャー　694
② ザ・デストロイヤー　670（読・朝・毎）☆
③ スタン・ハンセン　411
④ ルー・テーズ　364（読・朝・毎）☆
⑤ アンドレ・ザ・ジャイアント　327（読・朝・毎）
⑥ ミル・マスカラス　310
⑦ ハルク・ホーガン　302
⑧ タイガー・ジェット・シン　270
⑨ ボボ・ブラジル　265（読・朝・毎）☆
⑩ グレート東郷　202（掲載なし）☆
⑪ シャープ兄弟　190（掲載なし）☆
⑫ テリー・ファンク　153（読・朝・毎）　※朝日は「惜別」欄
⑬ ビル・ロビンソン　145（読・朝・毎）
⑭ アントン・ヘーシンク　133（読・朝・毎）
⑮ ドリー・ファンク・ジュニア　125
⑯ ブルーザー・ブロディ　119（朝・毎）
⑰ フレッド・ブラッシー　112（読・朝・毎）☆
⑱ フリッツ・フォン・エリック　68（掲載なし）映画「アイアン・クロー」
⑲ ダイナマイト・キッド　65（読・毎）
⑳ ロード・ウォリアーズ　48（掲載なし）
㉑位以下
ハロルド坂田（読・朝・毎）☆
ブルーノ・サンマルチノ（読・朝・毎）
ザ・シーク（掲載なし）
ビッグバン・ベイダー（読・毎）
キラー・コワルスキー（読・朝・毎）☆
ブラック・タイガー（マーク・ロコ）（掲載なし）
ジン・キニスキー（掲載なし）

7、プロレスの現状
　多団体化（73団体、男子（中心）団体56、女子（中心）団体17。レスラー総数1164名（男子894名、女子270名））、地元密着団体の乱立、レスラーの軽量化
　※データは『プロレスラー選手名鑑』（ベースボール・マガジン社）に基づく。

●結語
　力道山「プロレスはリングに上がるまでがスポーツなのだ。リングの上ではそうやって鍛えた体でいかに客を楽しませるかがレスラーの腕になる」（1962年、報知新聞記者に対して）。